

ECONOMY TOPICS

経済トピックス

2014.2.19

No.425



業況 BSI、2 期連続で上昇 (平成 25 年 10 ~ 12 月期の県内企業業況調査結果)

調査内容 平成 25 年 10 ~ 12 月期の県内企業の業況実績
平成 26 年 1 ~ 3 月期の県内企業の業況見通し
特別調査 県内企業の平成 25 年冬のボーナス支給状況

調査時期 平成 26 年 1 月上旬

調査対象企業 県内中堅企業 229 社

回答企業 139 社(回収率:60.7%)

}	製造業 36 社	建設業 28 社	卸売業 26 社
	小売業 17 社	運輸業 12 社	サービス業 20 社
	青森地区 44 社	津軽地区 40 社	県南地区 55 社

BSI とは

Business Survey Index の略であり、企業業況判断指標という意味である
指標の求め方は次の通り

BSI = 「業況良好企業及びやや良好企業の割合」 - 「業況不振企業及びやや不振企業の割合」

注:業況判断は前年同期との比較による

1. 概 況

平成 25 年 10～12 月期の全産業「業況 BSI」は前期(25 年 7～9 月期)比 16.8 ポイント上昇の 17.5 となった。消費税率引上げ前の駆け込み需要の影響などから、製造業、小売業、卸売業の大幅な改善がみられ、2 期連続で大幅に上昇した。

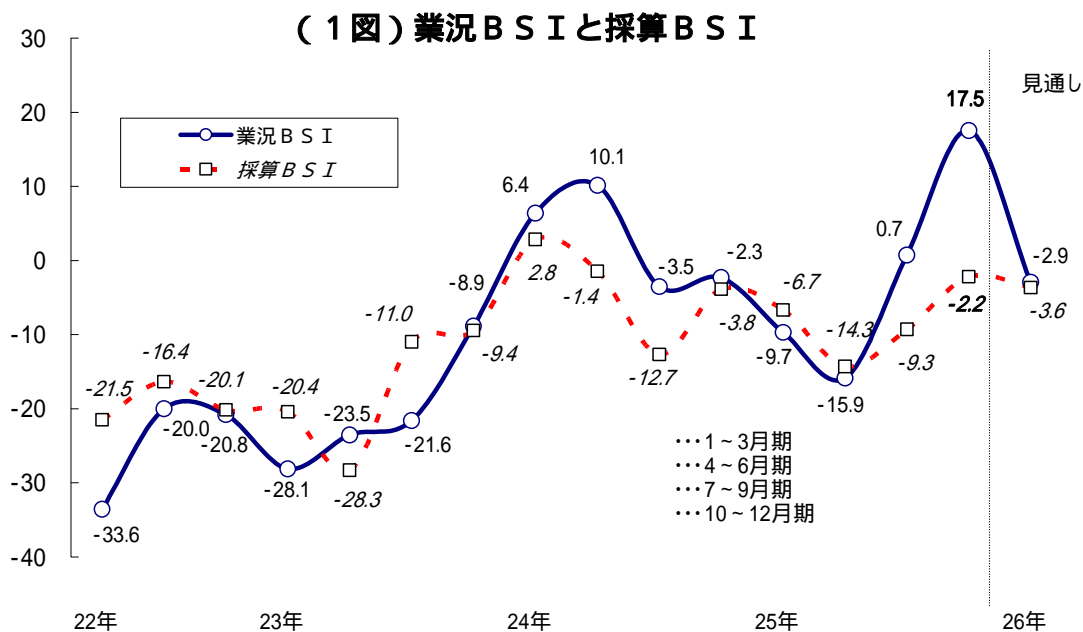
一方、全産業「採算 BSI」は同 7.1 ポイント上昇の 2.2 となった。製造業、小売業、卸売業の改善が全体を押し上げ、2 期連続上昇した。

主要 BSI をみると、「生産高 BSI」、「操業度 BSI」はともに上昇した。建設業の「受注高 BSI」は 3 期ぶりに低下したものの、高め

の水準を維持している。「売上高 BSI」は小売業、卸売業が大幅に改善し、2 期連続で上昇した。「出荷高 BSI」は 3 期連続で上昇した。「仕入単価 BSI」は 4 期連続、「販売単価 BSI」は 5 期連続で上昇し、価格ギャップは幾分縮小した。「在庫投資 BSI」は製造業、非製造業ともに上昇した。「設備投資 BSI」は製造業が低下、非製造業は上昇した。

来期の見通しについては、「業況 BSI」が大幅に低下、「採算 BSI」は幾分低下する見通しである。

(以上、1～12 図、1 表 参照)



2. 25 年 10～12 月期の業況

(1) 業 況 小売業、卸売業で大幅改善

25 年 10～12 月期の全産業「業況 BSI」は前期比 16.8 ポイント上昇の 17.5 となった。業況判断の内訳をみると、業況好転とした企業の割合が同 7.3 ポイント増加の 41.6%、

業況悪化とした企業の割合は同 9.5 ポイント減少の 24.1%となった。

産業別の「業況 BSI」をみると、製造業は前期比 28.3 ポイント上昇の 22.2 と大幅に上

昇した。水産加工、農産加工、酒類、木材・木製品、化学、生コン、農業機械、電子部品・デバイス、精密機械と幅広い業種で業況好転がみられた。一方、飲料、裁縫、パルプ・紙、一般機械では悪化がみられた。

非製造業は、小売業が前期比 57.3 ポイント上昇の 11.8、卸売業が同 32.0 ポイント上昇の 40.0 とそれぞれ大幅に上昇した。一方、運輸・サービス業は同 16.8 ポイント低下の -6.5、建設業は同 7.2 ポイント低下の 21.4 となった。

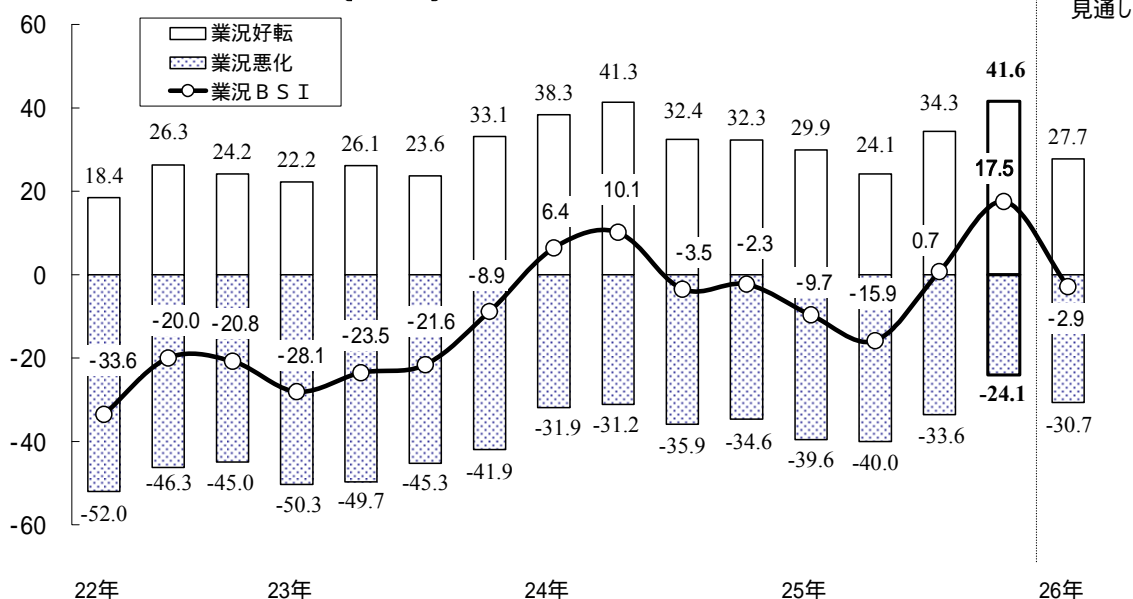
小売業は燃料、家電で業況好転が目立っており、酒類、衣料品、乗用車でも好転がみられた。また、幅広い業種で悪化とする割合が減少した。卸売業は衣料品、菓子材料、米穀で悪化がみられたものの、建設資材で

好転とする割合が広がったほか、青果物、水産物、燃料、紙類、事務機器などで好転した。運輸・サービス業は道路貨物運送、不動産賃貸、葬祭、リース、介護で好転がみられたものの、旅客運送で悪化が広がったほか、鉄道、情報処理、旅行斡旋で悪化した。建設業は総合建設業で悪化がみられ、BSI は低下したものの、高めの水準を維持している。

当期の「業況 BSI」は 2 期連続で大幅に上昇した。製造業が改善したほか、消費税引上げ前の駆け込み需要などから小売業、卸売業で大幅な改善がみられ、全体を押し上げた。

(以上、2 図,付表 参照)

(2 図) 業況 B S I の推移



(付表) 産業別業況 B S I の推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
24年10 - 12月期	-15.6	-11.5	20.7	5.6	-8.0	-2.3
25年 1 - 3月期	-20.6	-14.8	20.0	-14.3	-14.8	-9.7
25年 4 - 6月期	-5.9	-3.7	-3.4	-30.4	-37.5	-15.9
25年 7 - 9月期	-6.1	28.6	8.0	-45.5	10.3	0.7
25年10 - 12月期	22.2	21.4	40.0	11.8	-6.5	17.5
来期見通し	-11.1	-7.1	20.0	-23.5	3.2	-2.9

(2) 採算の状況

「採算BSI」2期連続で上昇

25年10～12月期の全産業「採算BSI」は前期比7.1ポイント上昇の-2.2となった。採算判断の内訳をみると、採算好転とした企業の割合は同6.7ポイント増加の19.6%、一方、採算悪化とした企業の割合は同0.4ポイント減少の21.7%となった。

産業別の「採算BSI」をみると、製造業は前期比21.7ポイント上昇の2.9となり、プラスに転じた。パルプ・紙、鉄鋼、裁縫、一般機械で採算悪化がみられたものの、木材・木製品で好転が広がったほか、養鶏、化学、精密機械で好転がみられた。

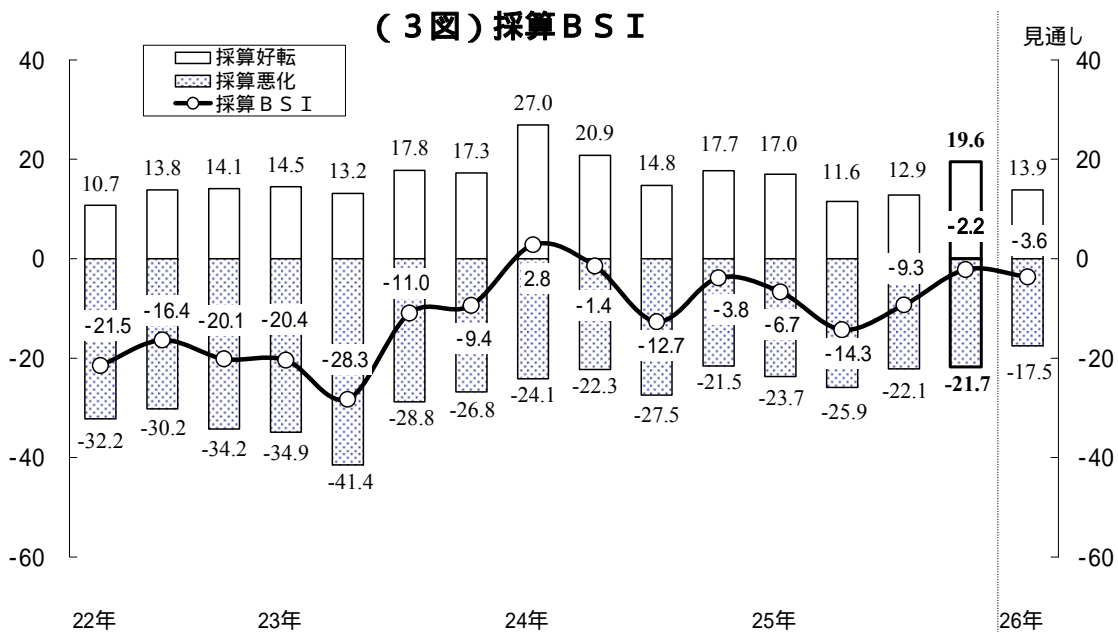
非製造業は、小売業が前期比17.4ポイント上昇の0.0、卸売業が同14.5ポイント上昇の3.8となった。一方、運輸・サービス業は同9.1ポイント低下の-12.5、建設業は

同7.2ポイント低下の-3.6となった。

小売業はスーパー、衣料品で悪化がみられたものの、宝飾、乗用車、燃料、家電で好転した。卸売業は衣料品、菓子材料で悪化したものの、青果物、水産物、建設資材で好転がみられた。運輸・サービス業は道路貨物運送、ガス供給、不動産賃貸で好転がみられたものの、旅客運送で悪化が広がったほか、宿泊、情報処理で悪化した。建設業は総合建設業で悪化がみられた。

当期の採算BSIは小売業、卸売業の改善が全体を押し上げ、2期連続で上昇した。

(以上、3図、付表参照)



(付表) 産業別採算BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
24年10-12月期	-16.1	-15.4	17.2	5.6	-7.7	-3.8
25年1-3月期	-20.6	0.0	-7.7	4.8	-3.7	-6.7
25年4-6月期	-15.2	-3.6	-13.3	-4.2	-31.3	-14.3
25年7-9月期	-18.8	3.6	-10.7	-17.4	-3.4	-9.3
25年10-12月期	2.9	-3.6	3.8	0.0	-12.5	-2.2
来期見通し	-8.6	-7.1	15.4	-5.9	-9.7	-3.6

(3) 生産高・操業度の状況

「生産高 BSI」、 「操業度 BSI」とも上昇

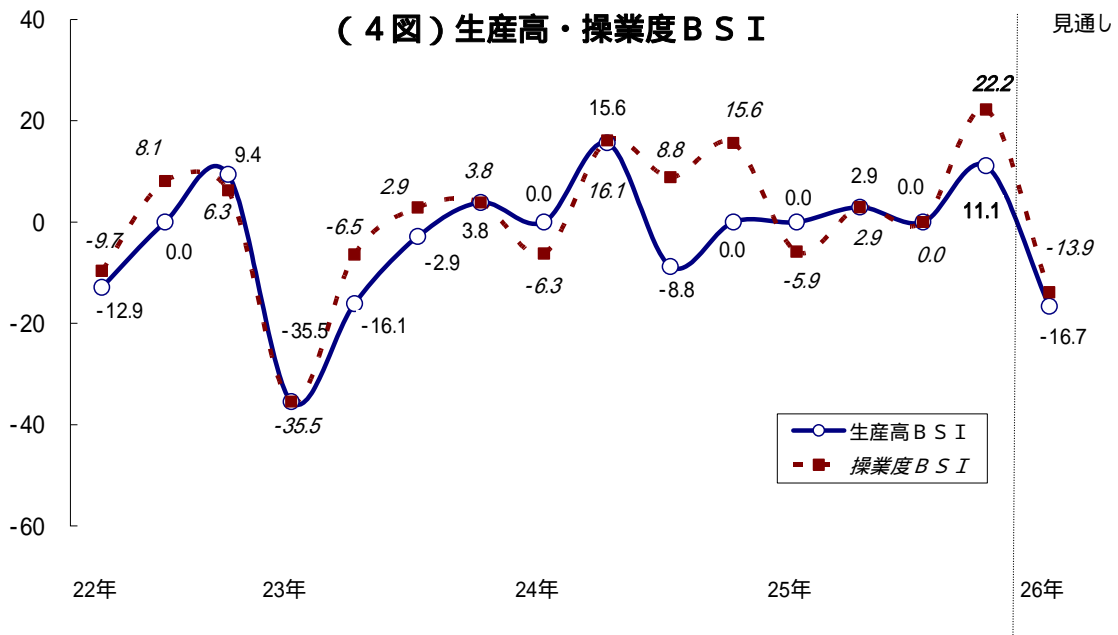
25 年 10～12 月期の「生産高 BSI」は前期比 11.1 ポイント上昇の 11.1 となった。一方、「操業度 BSI」も同 22.2 ポイント上昇の 22.2 となった。

水産加工、調味料、飲料、裁縫、パルプ・紙で減産の動きが続いているものの、建設需要から生コン、木材・木製品で増産の動きが広がったほか、酒類、化学、鉄鋼、農業機

械、電子部品・デバイス、精密機械でも増産の動きがみられた。

来期は「生産高 BSI」が当期比 27.8 ポイント低下の 16.7、「操業度 BSI」が同 36.1 ポイント低下の 13.9 と、ともに大幅に低下する見通しである。

(以上、4 図 参照)



(4) 受注高の状況

「受注高 BSI」3 期ぶりに低下、高めの水準は維持

25 年 10～12 月期の建設業の「受注高 BSI」は前期比 28.6 ポイント低下の 10.7 となった。内訳をみると、受注増加とした企業の割合が同 21.4 ポイント減少の 35.7%、一方、受注減少の割合は同 7.1 ポイント増加の 25.0%となった。当期の BSI は大幅に低下し、3 期ぶりのマイナスとなった。しかしながら、受注増加の割合は減少を上回っており、BSI は 2 期連続のプラスと高めの水準を維持している。

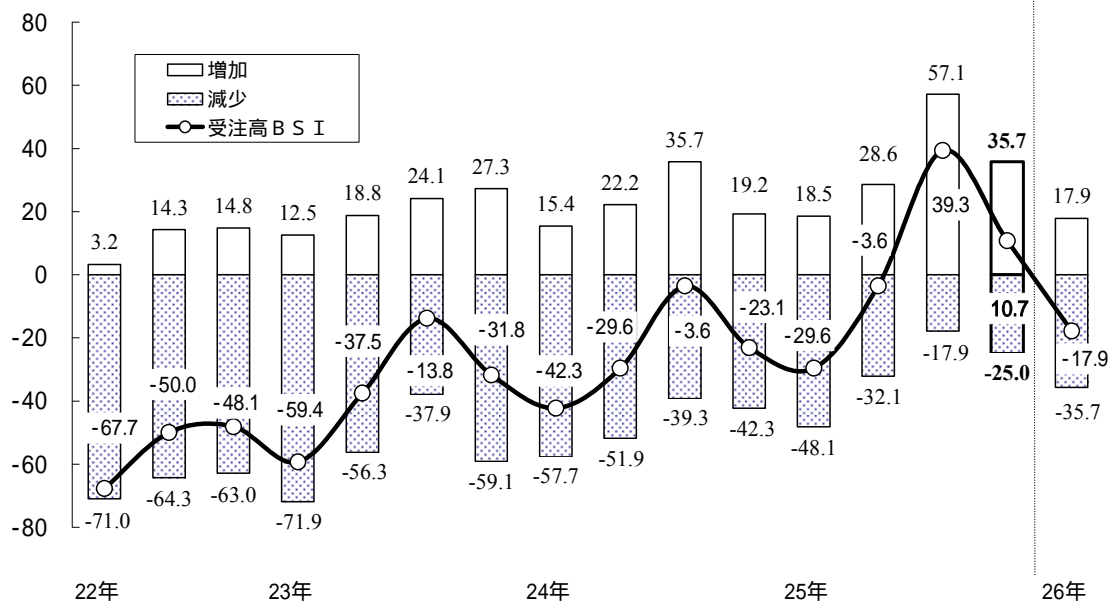
当期は、消費税率引き上げ前の駆け込

み需要などから総合建設、住宅建設で受注増加がみられたものの、土木建設で受注減少に転じる動きがみられた。

来期は受注増加とする割合が当期比 17.8 ポイント減少の 17.9%、受注減少とする企業の割合は同 10.7 ポイント増加の 35.7% と見込まれている。この結果、「受注高 BSI」は同 28.6 ポイント低下の 17.9 と大幅に低下する見通しである。

(以上、5 図 参照)

(5図) 受注高BSI



(5) 売上高・出荷高の状況

小売業、卸売業が大幅改善

25年10～12月期の「売上高BSI」は、前期比8.4ポイント上昇の12.2となり、2期連続で上昇した。

産業別の「売上高BSI」をみると、小売業が前期比45.2ポイント上昇の23.5、卸売業が同23.7ポイント上の30.8とそれぞれ大幅に改善した。一方、運輸・サービス業は同30.4ポイント低下の9.7と大幅に低下した。

小売業は衣料品、スーパー、酒類、燃料、電気機器で売上増加が目立った。全体に減少とする割合が前期に比べ少なく、消費税率引上げ前の駆け込み需要の影響がうかがわれた。卸売業は衣料品、菓子材料、米穀などで減少したものの、青果物、水産物、建設資材で増加割合が広がったほか、紙類、事務機器、燃料で増加がみられた。運輸・サービス業は道路貨物運送、不動産、リース、介護で売上増加がみられたものの、旅客運送で減少が広がったほか、宿泊で減

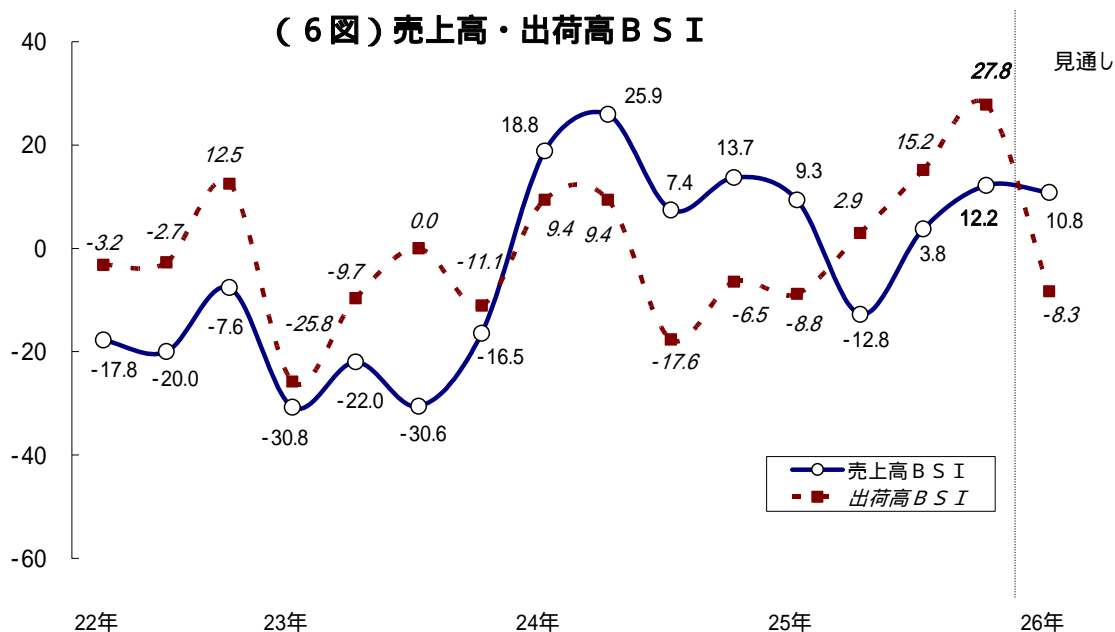
少に転じる動きがみられた。

なお、来期の「売上高BSI」は運輸・サービス業で上昇が見込まれるものの、小売業、卸売業で低下し、全体では当期比1.4ポイント低下の10.8となる見通しである。

製造業の25年10～12月期の「出荷高BSI」は前期比12.6ポイント上昇の27.8となり、3期連続で上昇した。水産加工、裁縫、砕石などで出荷減少がみられたものの、養鶏、麺類、酒類、木材・木製品、化学、砕石、生コン、鉄鋼、農業機械、電子部品・デバイス、精密機械で増産の動きが目立った。

来期の「出荷高BSI」は、砕石、生コン、農業機械で出荷減少に転じる動きが見込まれているほか、全体に増加とする割合が落ち込み、当期比36.1ポイント低下の8.3となる見通しである。

(以上、6図、付表 参照)



(付表) 売上高・出荷高BSIの推移

	出荷高BSI		売上高BSI		
	製造業	卸売業	小売業	運輸・サービス	
24年10 - 12月期	-6.5	17.2	16.7	7.7	13.7
25年1 - 3月期	-8.8	19.2	0.0	7.1	9.3
25年4 - 6月期	2.9	9.7	-25.0	-25.8	-12.8
25年7 - 9月期	15.2	7.1	-21.7	20.7	3.8
25年10 - 12月期	27.8	30.8	23.5	-9.7	12.2
来期見通し	-8.3	26.9	-5.9	6.5	10.8

(6) 価格の状況

価格ギャップ、4期ぶりに幾分縮小

25年10～12月期の「仕入単価BSI」は前期比9.6ポイント上昇の61.9と4期連続で上昇した。産業別にみると、製造業が前期比15.0ポイント上昇の58.8、非製造業が同7.6ポイント上昇の63.4となった。

製造業は水産加工、酒類など食料品全般で仕入単価上昇の動きが広がったほか、パルプ・紙、生コン、鉄鋼、農業機械、一般機械など幅広い業種で上昇の動きがみられた。

非製造業は、卸売業が前期比13.3ポイント上昇の57.7、建設業が同7.2ポイント上昇の78.6となった。一方、小売業は同2.9ポイント低下の47.1となった。

建設業は仕入単価上昇とする割合が8割近くを占め、低下とする回答はゼロであった。

卸売業は米穀で低下がみられたものの、建設資材で上昇が広がったほか青果物、水産物、菓子材料、燃料で上昇した。小売業はほぼ横ばいの動きとなり、スーパー、酒類、燃料、家電で上昇がみられた。

25年10～12月期の「販売単価BSI」は前期比13.2ポイント上昇の19.6と5期連続で上昇した。産業別にみると、製造業が前期比10.6ポイント上昇の16.7、非製造業が同14.1ポイント上昇の20.6となった。

製造業は裁縫、パルプ・紙、鉄鋼、精密機械で販売単価低下がみられたものの、水産加工、農産加工、養鶏、木材・木製品、砕石、電子部品・デバイスで上昇した。

非製造業は、卸売業が前期比32.1ポイント上昇の50.0、小売業が同25.1ポイント

上昇の29.4とそれぞれ大幅に上昇したほか、運輸・サービス業が同9.2ポイント上昇の16.1となった。一方、建設業は同3.5ポイント低下の7.1となった。

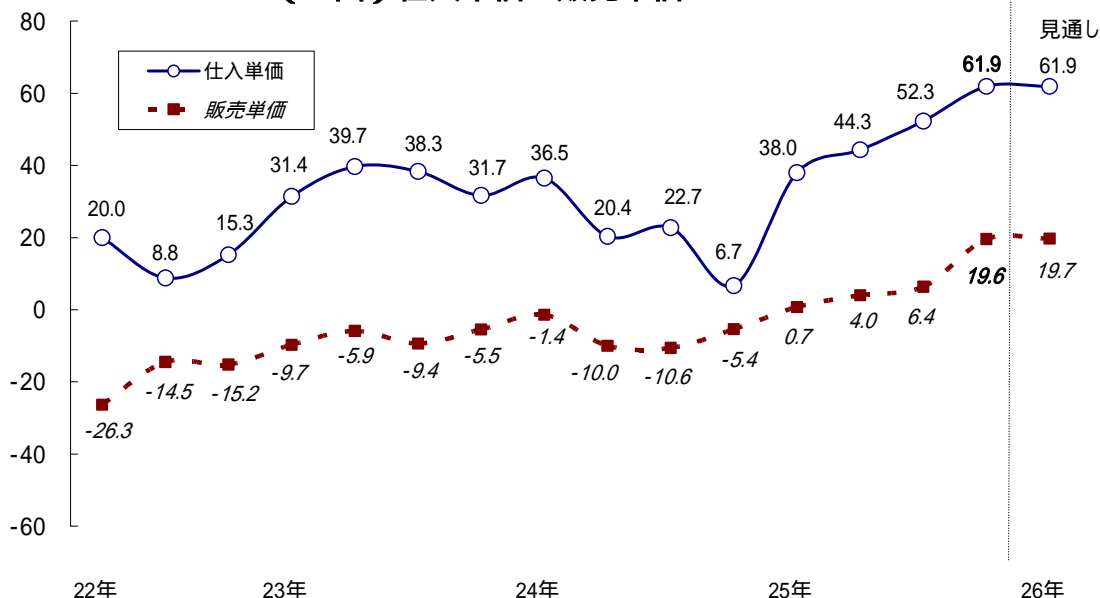
卸売業は米穀で低下がみられたものの、青果物、水産物、建設資材で上昇とする割合が広がったほか、燃料、肥料で上昇した。小売業はスーパー、燃料、家電で上昇がみられたほか、全体に低下とする割合が減少した。運輸・サービス業は宿泊の一部、ガス供給、不動産賃貸で上昇がみられ、低下とする回答はゼロであった。建設業は上昇とする割合が幾分減少した。

この結果、当期は全体的に販売単価の上昇がみられ、価格ギャップは4期ぶりに幾分縮小した。

なお、来期については、「仕入単価 BSI」が当期比横ばいの61.9、「販売単価 BSI」が同0.1ポイント上昇の19.7となる見通しである。産業別にみると、それぞればらつきがみられるものの、全体としては横ばい圏内の動きが予想される。

(以上、7図,付表 参照)

(7図) 仕入単価・販売単価 B S I



(付表) 仕入単価 B S I の推移 (上昇-低下)

	製造業	非製造業				仕入単価 BSI
		建設業	卸売業	小売業	非製造業	
24年10-12月期	-3.2	19.2	3.4	5.6	9.6	6.7
25年1-3月期	20.6	51.9	42.3	42.9	45.9	38.0
25年4-6月期	44.1	57.1	36.7	39.1	44.4	44.3
25年7-9月期	43.8	71.4	44.4	50.0	55.8	52.3
25年10-12月期	58.8	78.6	57.7	47.1	63.4	61.9
来期見通し	58.8	82.1	73.1	17.6	63.4	61.9

(付表) 販売単価 B S I の推移 (上昇-低下)

	製造業	非製造業				販売単価 BSI
		建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	
24年10-12月期	-6.3	-15.4	-7.1	5.6	0.0	-5.2
25年1-3月期	-11.8	-11.1	11.5	28.6	-3.6	4.9
25年4-6月期	2.9	-7.1	16.1	16.7	-6.3	4.3
25年7-9月期	6.1	-3.6	17.9	4.3	6.9	6.5
25年10-12月期	16.7	-7.1	50.0	29.4	16.1	20.6
来期見通し	25.0	3.7	57.7	-5.9	9.7	17.8

(7) 在庫投資・在庫水準の状況 —非製造業で在庫積み増しの動き—

25年10～12月期の「在庫投資BSI」は、製造業が前期比9.1ポイント上昇の0.0、非製造業が同29.6ポイント上昇の25.6となった。

製造業は酒類、調味料、裁縫、鉄鋼などで在庫手控えとなったものの、木材・木製品、パルプ・紙、化学、生コンでは積み増しの動きがみられた。非製造業をみると、卸売業は建設資材、青果物、水産物、紙類、事務用品などで、小売業はスーパー、衣料品、酒類で在庫積み増しがみられた。

なお、来期の在庫投資BSIは、製造業が当期比5.7ポイント低下の△5.7、非製造業は同7.0ポイント低下の18.6と見込まれている。

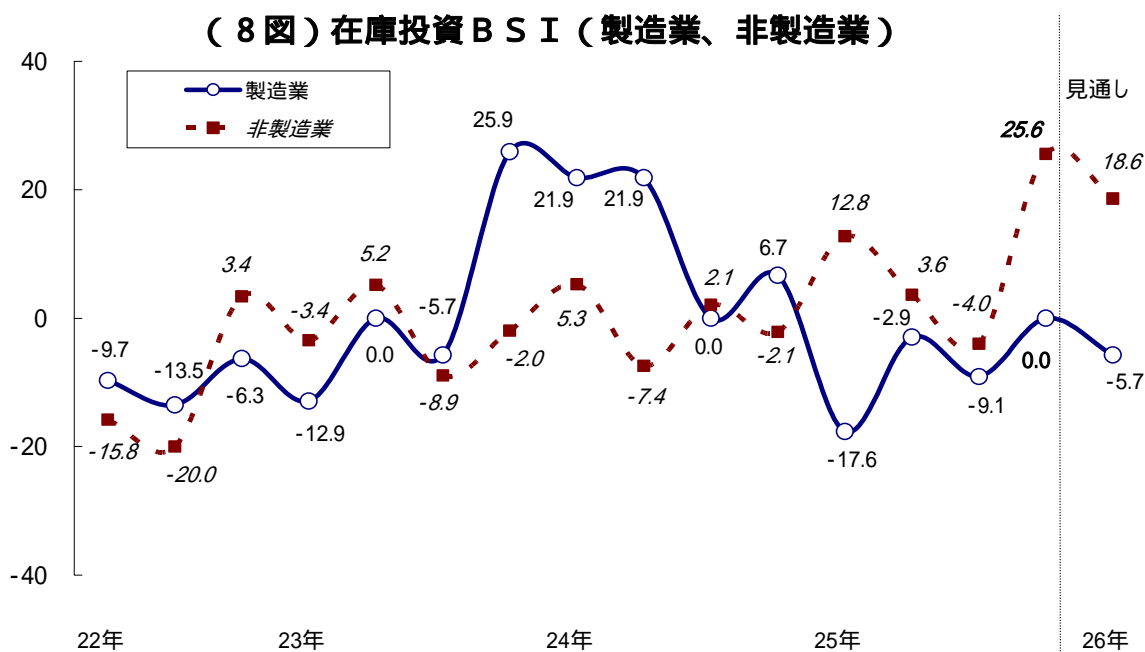
次に在庫水準についてみると、まず製造業の「原材料在庫水準BSI」は前期比4.9ポイント低下の△14.3となった。水産加工、農産加工、飲料、裁縫、木材・木製品で不

足感がみられた。来期は幾分不足感が和らぐ見通しとなっている。

一方、「製品・商品在庫水準BSI」は、製造業の製品在庫水準BSIが前期比3.3ポイント上昇の△2.8、卸・小売業の「商品在庫水準BSI」が同6.5ポイント上昇の16.3となった。製品は水産加工、農産加工、酒類、裁縫木材・木製品で不足感がみられたものの、飲料、パルプ・紙、化学で過剰感がみられた。商品は卸売業の衣料品、水産物、菓子材料、紙類、事務機器や、小売業の衣料品、スーパーで過剰感がみられた。一方、卸売業の青果物、小売業の乗用車販売の一部では不足感がみられた。

来期は製品が当期比横ばいとなり、商品は過剰感が和らぐものと見込まれている。

(以上、8図、付表 参照)



(付表) 在庫関連BSIの推移

	在庫投資BSI		原材料在庫水準BSI	製品・商品在庫水準BSI	
	製造業	非製造業	製造業	製造業	卸・小売業
24年10 - 12月期	6.7	-2.1	0.0	3.1	8.5
25年1 - 3月期	-17.6	12.8	-2.9	12.1	8.5
25年4 - 6月期	-2.9	3.6	-9.1	3.0	10.9
25年7 - 9月期	-9.1	-4.0	-9.4	-6.1	9.8
25年10 - 12月期	0.0	25.6	-14.3	-2.8	16.3
来期見通し	-5.7	18.6	-11.4	-2.8	7.0

(8) 設備投資の動向

—製造業が低下、非製造業は上昇—

25年10～12月期の「設備投資BSI」は、製造業が前期比9.6ポイント低下の5.6と3期ぶりに低下した。一方、非製造業は同9.2ポイント上昇の8.2と3ヶ月ぶりに上昇した。

製造業は、砕石・生コンで重機、ミキサー車、車輛購入など、パルプ・紙で効率化、設備維持・更新など、精密機械で成形機購入などの投資がみられたものの、全体としては慎重な姿勢がうかがわれた。

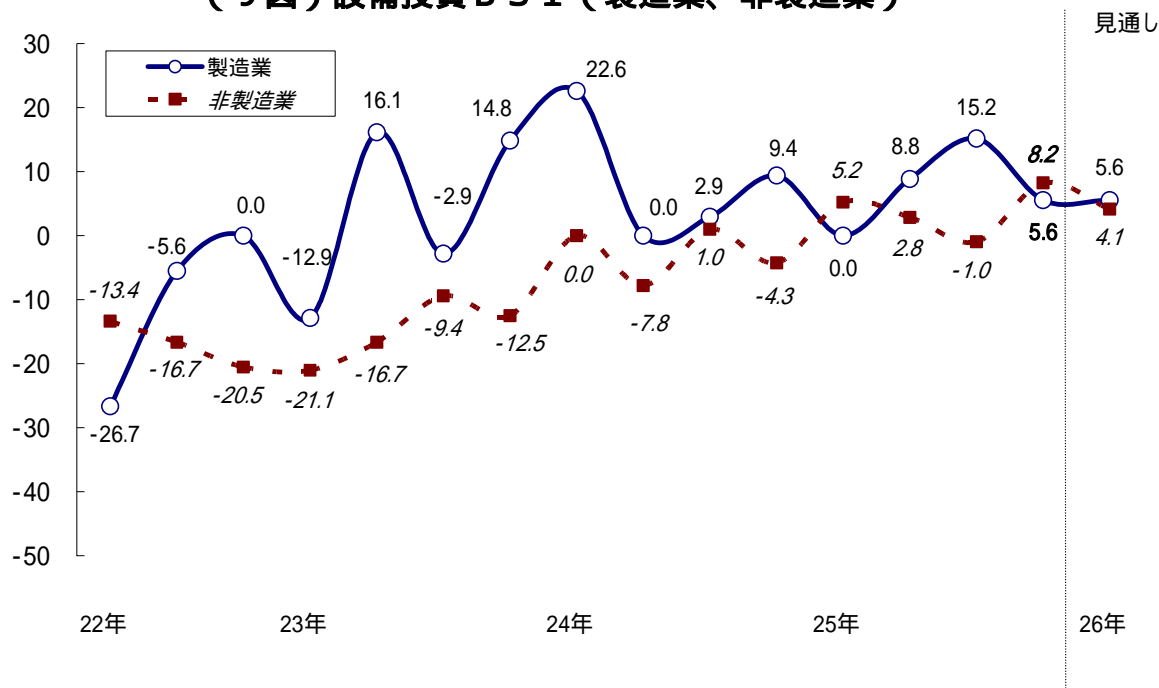
非製造業をみると、建設業は車輛・建設機械購入などの投資がみられた。卸売業は建設資材で営業所移転、太陽光パネル設置など、小売業はスーパーで店舗建設など

の投資がみられた。運輸・サービス業は旅客・貨物運送で車輛購入や設備の維持更新、ガス供給でガス管入替、葬祭で会場建設、リースでレンタル資産購入などの投資がみられた。

なお、来期の「設備投資BSI」は、製造業が当期比横ばいの5.6、非製造業は同4.1ポイント低下の4.1と見込まれている。

(以上、9図参照)

(9図) 設備投資BSI (製造業、非製造業)



(9) 企業金融の動向

—手元資金の減少傾向が幾分後退—

25年10～12月期の企業金融の動向をみると、「現金・預金BSI」が前期比1.4ポイント上昇の△3.7となり、手元資金の減少傾向が幾分後退した。「借入金利BSI」が同

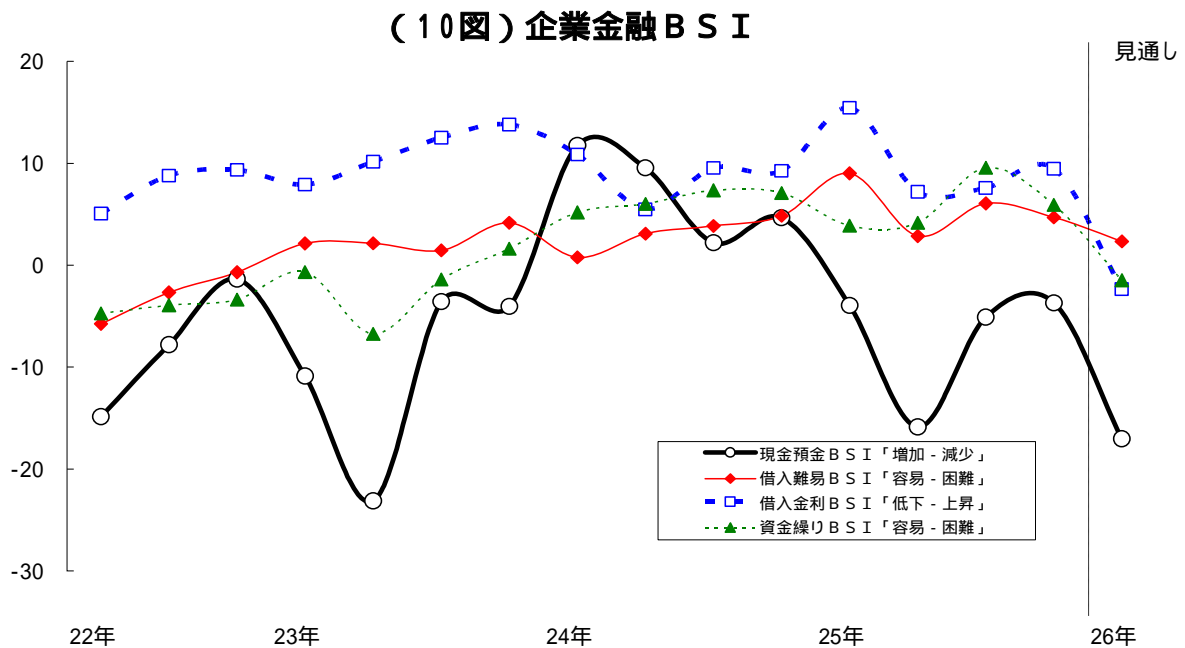
1.8ポイント上昇の9.4、「借入難易BSI」は同1.4ポイント低下の4.7、「資金繰りBSI」は同3.7ポイント低下の5.9と幾分変動がみられたものの、全体に落ち着いた動きとなっ

た。

強まる見通しとなっている。

来期は各 BSI とも低下が見込まれており、
手元資金の厳しさ、借入金利の上昇傾向が

(以上、10 図,付表 参照)



(付表) 企業金融 B S I の推移

	現金預金 BSI (増加 - 減少)	借入難易 BSI (容易 - 困難)	借入金利 BSI (低下 - 上昇)	資金繰り BSI (容易 - 困難)
24年10 - 12月期	4.7	4.8	9.2	7.1
25年 1 - 3月期	-3.9	9.0	15.4	3.9
25年 4 - 6月期	-15.9	2.9	7.2	4.2
25年 7 - 9月期	-5.1	6.1	7.6	9.6
25年10 - 12月期	-3.7	4.7	9.4	5.9
来期見通し	-17.0	2.3	-2.4	-1.5

(10) 地区別の状況 —「業況 BSI」3 地区とも上昇—

25 年 10～12 月期の「業況 BSI」を地区別にみると、青森地区が前期比 24.9 ポイント上昇の 18.6、県南地区が同 20.4 ポイント上昇の 24.1 と大幅に上昇したほか、津軽地区も同 1.8 ポイント上昇の 7.5 と 3 地区ともに上昇した。

主要 BSI をみると、まず、「生産高 BSI」は、津軽地区が前期比 22.2 ポイント上昇の △11.1、青森地区が同 19.4 ポイント上昇の

△25.0 と大幅に上昇したほか、県南地区も同 3.5 ポイント上昇の 36.8 となった。

「出荷高 BSI」は、津軽地区が前期比 27.8 ポイント上昇の 11.1、青森地区が同 23.6 ポイント上昇の 12.5 と大幅に上昇したほか、県南地区も同 3.2 ポイント上昇の 42.1 となった。

「売上高 BSI」は、県南地区が前期比 14.5 ポイント上昇の 3.8、青森地区が同

12.0ポイント上昇の12.0となった。一方、津軽地区は同5.6ポイント低下の21.7となった。

建設業の「受注高BSI」は、青森地区が前期比34.4ポイント低下の10.0、県南地区が同30.0ポイント低下の20.0、津軽地区が同22.2ポイント低下の0.0と3地区とも大幅に低下した。

「採算BSI」は、青森地区が前期比17.5ポイント上昇の4.7、津軽地区が同3.5ポイント上昇の△10.0、県南地区が同1.8ポイン

ト上昇の△1.8と3地区ともに上昇した。

来期の「業況BSI」をみると、青森地区が当期比27.9ポイント低下の△9.3、県南地区が同26.0ポイント低下の△1.9、津軽地区が同5.0ポイント低下の2.5と3地区とも低下が見込まれている。

他の主要BSIについては、津軽地区、県南地区の一部で上昇がみられるものの、全体としては低下する見通しが大勢を占めている。

(以上、1表参照)

(1表) 地域別BSIの推移

	業況BSI			生産高BSI			出荷高BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
24年10 - 12月期	0.0	-17.1	5.6	12.5	33.3	-16.7	0.0	16.7	-17.6
25年 1 - 3月期	-23.3	-5.3	-1.9	-28.6	40.0	-11.8	-42.9	20.0	-11.8
25年 4 - 6月期	-24.0	-23.1	-3.6	-25.0	57.1	-5.3	-37.5	57.1	0.0
25年 7 - 9月期	-6.3	5.7	3.7	-44.4	-33.3	33.3	-11.1	-16.7	38.9
25年10 - 11月期	18.6	7.5	24.1	-25.0	-11.1	36.8	12.5	11.1	42.1
来期見通し	-9.3	2.5	-1.9	-50.0	-44.4	10.5	-37.5	-33.3	15.8
	売上高BSI			受注高BSI			在庫投資BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
24年10 - 12月期	16.0	-20.0	35.7	-44.4	-33.3	12.5	12.0	5.9	-8.3
25年 1 - 3月期	-7.1	-15.0	44.4	-66.7	12.5	-30.0	11.5	5.0	-11.4
25年 4 - 6月期	-11.8	-21.7	-6.9	-22.2	0.0	10.0	-10.0	15.0	2.6
25年 7 - 9月期	0.0	27.3	-10.7	44.4	22.2	50.0	-10.3	-23.5	5.4
25年10 - 11月期	12.0	21.7	3.8	10.0	0.0	20.0	28.0	20.0	0.0
来期見通し	8.0	17.4	7.7	-40.0	-12.5	0.0	12.0	0.0	9.1
	設備投資BSI			採算BSI			資金繰りBSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
24年10 - 12月期	7.3	-18.2	3.9	0.0	-17.1	1.9	14.3	-6.3	9.4
25年 1 - 3月期	7.3	-2.7	5.8	-4.5	-29.7	7.4	13.6	-14.7	7.8
25年 4 - 6月期	8.3	-5.3	7.4	-20.0	-25.6	-1.7	13.7	-15.8	9.1
25年 7 - 9月期	2.2	-8.6	11.1	-12.8	-13.5	-3.6	20.8	-11.4	13.2
25年10 - 11月期	11.9	-2.6	11.3	4.7	-10.0	-1.8	9.1	-13.2	17.0
来期見通し	-4.8	5.3	11.3	7.0	-23.1	1.8	0.0	-18.4	9.4

3. 経営上の問題点

—「仕入単価上昇」の割合が増加—

25年10～12月期の経営上の問題点については、「競争の激化」が52.2%でトップとなり、「仕入単価上昇」が50.7%で2位となった。次いで、「売上・受注不振」が37.7%、「収益低下」が29.0%、「人手不足」が26.8%などと続いた。「競争の激化」が依然としてトップを占める中、原材料価格、卸売価格の上昇などから「仕入単価上昇」の割合が増加し、トップと僅差の2位となった。

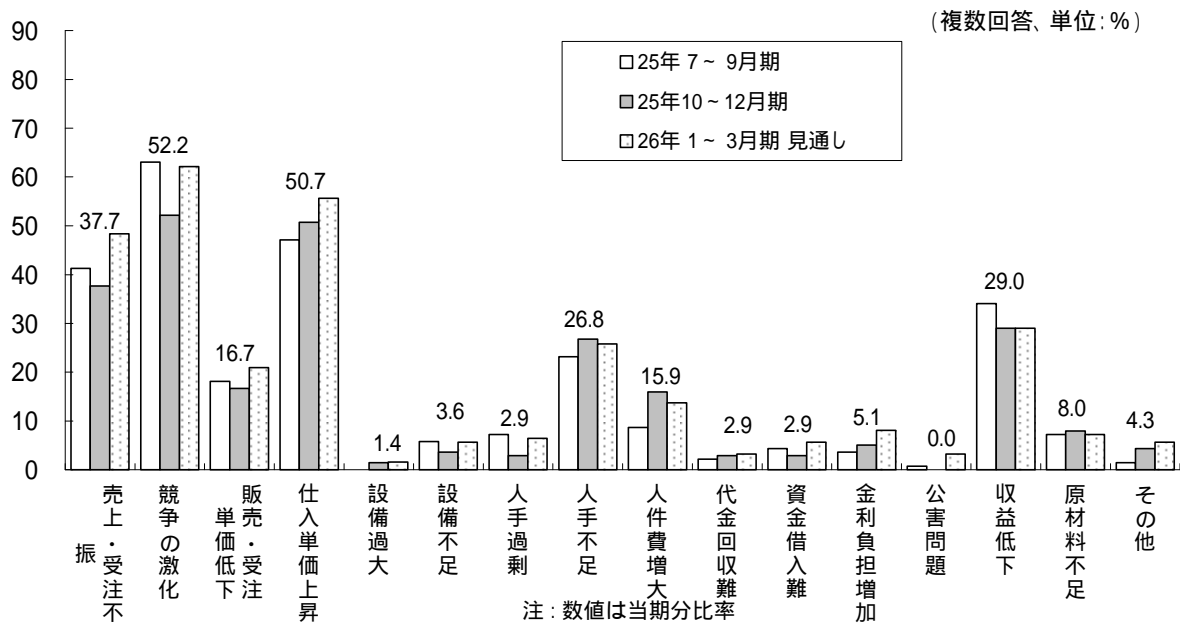
産業別にみると、産業間で多少ばらつきがみられた。「競争の激化」は卸売業、小売業、運輸・サービス業でトップとなったが、「仕入単価上昇」は製造業、建設業でトップ

となった。「収益低下」は建設業が約4割と高い割合を示した。また、「人手不足」は運輸・サービス業のうち運輸業で5割を超えトップとなったほか、建設業も4割を超え3位となった。

なお、来期の経営上の問題点については、「競争の激化」が当期比9.9ポイント増の62.1%と依然としてトップを占める見通しである。また、「仕入単価上昇」、「売上・受注不振」の割合も増加する見通しとなっている。

(以上、11図、付表 参照)

(11図) 経営上の問題点



(付表) 経営上の問題点

(複数回答、単位：%)

	売上・受注不振	競争激化	販売・受注単価低下	仕入単価上昇	人手不足	人件費増大	収益低下
24年10 - 12月期	44.5	67.2	33.6	24.2	17.2	10.2	44.5
25年1 - 3月期	50.7	59.0	26.9	43.3	18.7	9.7	38.8
25年4 - 6月期	57.3	65.0	25.9	41.3	18.9	8.4	43.4
25年7 - 9月期	41.3	63.0	18.1	47.1	23.2	8.7	34.1
25年10 - 12月期	37.7	52.2	16.7	50.7	26.8	15.9	29.0
来期見通し	48.4	62.1	21.0	55.6	25.8	13.7	29.0

4. 来期の見通し

来期(26年1~3月期)の「業況BSI」は、全産業ベースで当期比20.4ポイント低下の△2.9となる見通しである。産業別にみると、小売業が同35.3ポイント低下の△23.5、製造業が同33.3ポイント低下の△11.1、建設業が同28.5ポイント低下の△7.1、卸売業が同20.0ポイント低下の20.0とそれぞれ大幅に低下すると見込まれている。一方、運輸・サービス業は同9.7ポイント上昇の3.2となる見通しである。

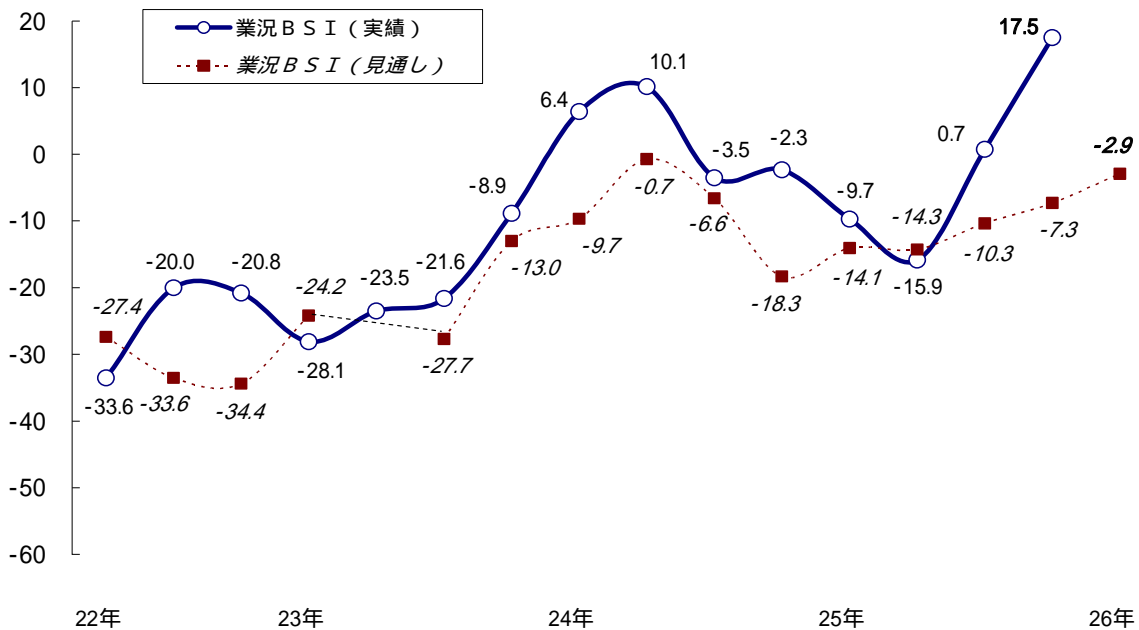
次に「採算BSI」をみると、全産業ベースで当期比1.4ポイント低下の△3.6と、幾分の低下が見込まれている。産業別にみると、

製造業が同11.5ポイント低下の△8.6、小売業が同5.9ポイント低下の△5.9、建設業が同3.5ポイント低下の△7.1となる見通しである。一方、卸売業は同11.6ポイント上昇の15.4、運輸・サービス業は同2.8ポイント上昇の△9.7と見込まれており、産業間では幾分ばらつきがみられる。

このほかの主要BSIでは、「生産高BSI」、「操業度BSI」、「受注高BSI」、「売上高BSI」、「出荷高BSI」が低下する見通しとなっており、4月以降の消費税率引上げ影響への懸念がうかがわれる。

(以上、1~12図、付表 参照)

(12図) 業況BSIの見通しと実績の推移



(付表) 業況BSI、採算BSIの来期見通し

		製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
業況BSI	25年10 - 12月期	22.2	21.4	40.0	11.8	-6.5	17.5
	来期見通し	-11.1	-7.1	20.0	-23.5	3.2	-2.9
採算BSI	25年10 - 12月期	2.9	-3.6	3.8	0.0	-12.5	-2.2
	来期見通し	-8.6	-7.1	15.4	-5.9	-9.7	-3.6

【特別調査】 県内企業の平成 25 年冬のボーナス支給状況

業況調査と並行して、県内企業の平成 25 年冬のボーナス支給状況について特別調査を実施した。調査要領は企業業況調査と同様であるが、回答企業は 96 社であった。

- 平均支給額は前年比 4.2%増、全産業で増加 -

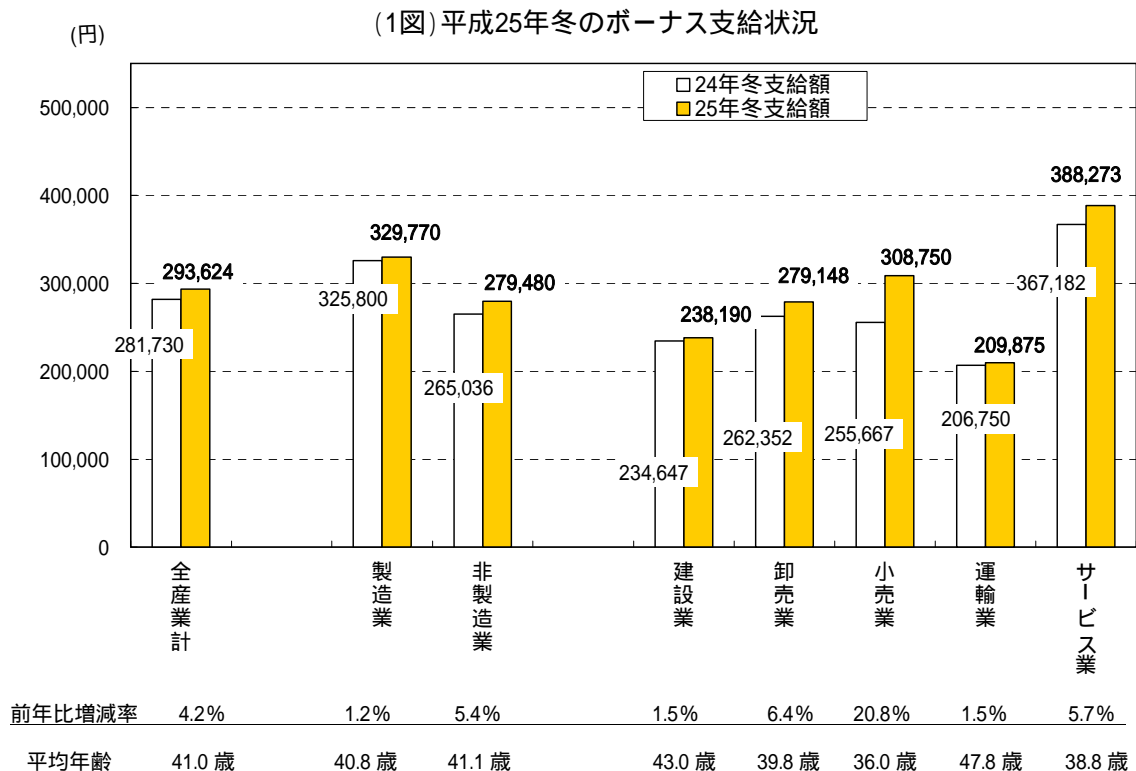
県内企業の平成 25 年冬のボーナス平均支給額は 29 万 3,624 円となり、前年比で率にして 4.2%、金額で 1 万 1,894 円上回った。(回答企業の前年冬実績比)

産業別の平均支給額をみると、製造業が前年比 1.2%増、金額にして 3,970 円増の 32 万 9,770 円、一方、非製造業は同 5.4%増、1 万 4,444 円増の 27 万 9,480 円となった。非製造業を業種別にみると、建設業が前年比 1.5%増、3,543 円増の 23 万 8,190 円、卸売業が同 6.4%増、1 万 6,796 円増の 27 万 9,148 円、小売業

が同 20.8%増、5 万 3,083 円増の 30 万 8,750 円、運輸業が同 1.5%増、3,125 円増の 20 万 9,875 円、サービス業が同 5.7%増、2 万 1,091 円増の 38 万 8,273 円となった。

今冬のボーナス支給状況をみると、平均支給額は全産業で前年実績を上回った。ただ、非製造業間では産業間でボーナス支給状況にばらつきがみられ、小売業と運輸業、建設業とでは増加幅で約 5 万円の格差が生じている。

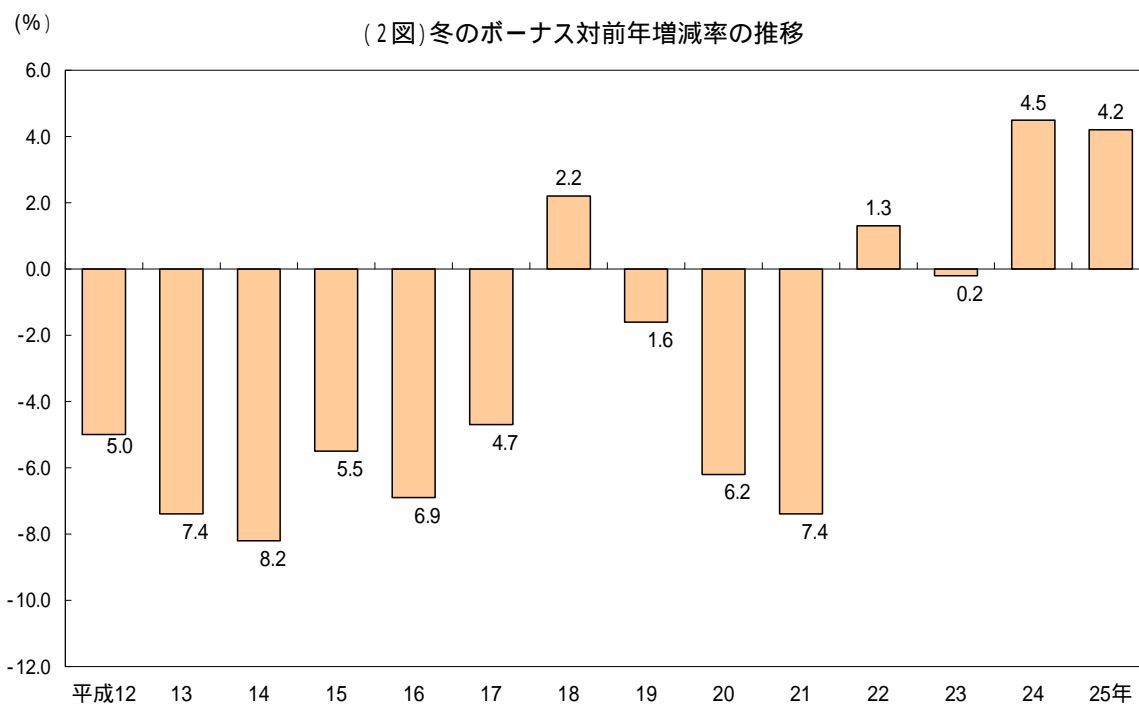
(以上 1 図 参照)



県内企業の冬のボーナス支給状況を前年比増減率(当行調査)でみると、2年連続で4%超のプラスとなった。ボーナスの伸びが連続してプラスとなるのは平成8年以降17年ぶりである。

県内企業を取り巻く経営環境は依然として厳しさが続いているものの、ボーナス支給については緩やかながら全体に回復の兆しが見えてくる。

(以上 2 図 参照)



【 本件に関する照会先 】

一般財団法人 青森地域社会研究所

担当：野里

TEL. 017-777-1511